

会議報告

導入できる多価ワクチンベクターの開発」、「薬剤耐性菌の全国調査に関するプロトコール開発への協力継続」、「動物用インフルエンザワクチン株の迅速変更システムへの協力」に関する要望事項に対し、動物衛生研究所からの対応方針を示しました。

5. 主要研究成果の検討、評価、採択

動物衛生試験研究分野の主要研究成果について、担当研究チーム長から31課題の概要を報告し、質疑と評価が行われました。一部の課題についてはタイトル、本文等の表現の議論がありましたが、一部

修正の上、全てを採択し、総括推進会議に提案することになりました。

外部委員から動物衛生分野の研究推進について述べられた意見は次の通りです。

動物衛生研究所は家畜保健衛生所の専門家2,200名の技術的なヘッドであり外から見ていて非常に頼もしく思えた。世界的に見ても先端技術を出してきている。感じたことは個々の研究成果はすばらしいものであるが、研究所としては課題選定時に選択と集中をし、目玉を考えるべきだ。

TOPICS

SAT10周年記念 TX テクノロジー・ショーケース in つくば

「TX テクノロジー・ショーケース in つくば」は、つくば市の研究機関を中心に、研究者相互の交流や研究者・企業・行政の横断的交流を促進すること、新たな発想に基づく研究やベンチャー事業の契機となる場を提供すること、そして幅広い分野の研究者・企業関係者に新たな出会いとひらめきの場を提供することを目的とする研究展示会です。

今回はつくばサイエンス・アカデミー (SAT) 10周年記念と銘打ち、平成22年12月24、25日につくば国際会議場にて開催され、物質・材料/ナノテクノロジー、農林水産/食品、土木/防災など幅広い分野から119件の研究が発表されました。筆者は「高病原性鳥インフルエンザに対する経鼻ワクチンの開発」と題して、最近の研究成果を発表しました。また、植物にウイルス病に対する抵抗性

を付与する技術など、日頃あまり知ることのない他の分野の研究成果に接し、今後の研究に多くの示唆を得ることができました。

ところで、今回も「高校生科学研究発表会」が併催され、科学部の高校生とも交流する機会があり

ました。彼らや彼女らが10年以内に確実に研究の最前線にいることを想像すると、研究の世界の厳しさに改めて身が引き締まる思いがしました。

(ウイルス・疫学研究領域
主任研究員 彦野弘一)

